



愛が芽生えるソウルアートセンター (芸術の殿堂)

職場の同僚である男女があるときソウルに出張に行ったときのこと。仕事は早く終わったある日、彼がソウル出身の彼女にソウルで行っておくべき場所を尋ねた。彼女はちょっと迷った後、観光名所ではないが、彼女が大好きなお勧めのソウルのある場所があるけど、それでいいかと返事した。

出不精の彼は、そのとき彼らがいたテヘラン路（ソウルのビジネス街）から近いという点が気に入り、彼女が勧める場所に向かうことにした。

そこは、ソウルアートセンター、「芸術の殿堂」と呼ばれる場所である。

テヘラン路からタクシーで40分位のところに、別世界が広がる。

クラシックな雰囲気の中、和やかで芸術的な空気に囲まれているソウルアートセンター。その中には、韓国最高施設の美術館、コンサートホール、さまざまな公演施設や文化芸術関連の施設が広大な敷地にゆったりと配置されている。

廊下の壁に設置された写真を見ながら、の



んびりと散歩をした男女は、カフェ・バウハウスという看板が見えると、入ってコーヒーを注文した。人の少ない平日の午後に、香ばしいコーヒーの香りが広がった。

ふたりは、コーヒーを飲んだ後、小さい丘につながる散策道に沿って散歩をした。しばらく歩くと、一面の緑に囲まれた小さい屋外コンサート場が現れた。

コンクリートの壁に満ちたソウルの大都市の一角の、この豊かな芸術の香りは、独身男女である彼らをまるで恋人と一緒にデートをしているような錯覚に陥らせた。



実は、ソウルアートセンターは、主人と私の思い出の場所である。ソウルアートセンターを選んだ私に彼に対する下心があったかどうかは論外においても、ソウルアートセンターは愛の魔力を持つ場所として有名で、デートスポットとしてもソウル市民から愛されている。

ソウルアートセンターはソウル市内にあり、地下鉄芸術の殿

堂駅からシャトルバスで10分くらいでいける。

音楽堂、コンサートホール、チェンバーホール、オペラハウス、美術館など、さまざまな公演施設が集まっている。

その中で、私が一番好きな施設はオペラハウスである。

延面積43,512㎡の円形建物であるオペラハウスには、公演活動のための公演スペースと、一般利用客のために常に解放されているパブリックスペースの二つのエリアがある。地下1階から地上6階まで広がる公演スペースでは、オペラはもちろん、ミュージカルや演劇などのさまざまな公演が行われる。(参考ウェブサイト：<http://www.sac.or.kr/jp/space/space.jsp>)

大学生の時、初めてオペラ劇場で、オペラを鑑賞した時の感動は忘れられない。オペラの舞台を作るプロセニウム・アーチ、先端機器、音響、照明装備、何もかもにオペラの感動を増幅させる気配りがあったお陰なのかわからないが、公演が終わっても涙が止まらず、しばらく席から立ち上がることができなかった。

ソウルアートセンターは、野外空間もお勧めだ。MUSIC PLAZAでは、イベント、野外映画祭などが行われる。そして、見所は世界音楽噴水だ。韓国画をモチーフとした山脈噴水、鶴の羽噴水、バレエ噴水などで構成さ



れていて、さまざまなジャンルの音楽にあわせて、噴水が踊り、夜になるとライトアップされる。その美しい光景と音楽を背景にしたら、彼女へのプロポーズの返事は、きっとYESとなるはず。

最近では、広い敷地を効果的に巡ることができるツアーもあるそうだ。ソウルアートセンターの中には、公演施設以外にも、散策道、レストラン、カフェ、ショッピングセンターがあるので、音楽や絵画、芸術に興味がない人でも、十分楽しめる施設である。

韓国旅行と言えば、焼肉、ショッピング、K-POP、ドラマのロケ地のようなところが想像されやすいが、ソウルアートセンターでは、言葉が分からなくても楽しめる無言劇形式の演劇から、クラシック、ジャズ、西洋形式を取り入れた韓国音楽の公演なども楽しむことができる。ソウルに行ったとき、足を運んでみる価値がある場所だ。



筆者紹介

朴沼泳 (ばく・そよん)

2001年38回韓国弁理士試験合格、2013年日本弁理士試験合格。現在は新樹グローバル・アイピー特許業務法人の顧問を務める。ソウル生まれ、2003年から現在まで日本在住。

韓国の中央大学の政治外交学科および大阪工業大学の電子情報通信学科を卒業。趣味はダンス、好きな食べ物はチラシ寿司、キムチチゲ。好きな言葉は「修身齊家治國平天下」。